

発行者：

東京大学 GCOE

都市空間の持続再生学の展開

東京大学大学院都市工学専攻

環境デザイン研究室

〒113-8656 東京都文京区

本郷7-3-1 工学部8号館7F

## 地区らしさを大切に、様々な世代が安全に暮らせる、これからの相野釜地区

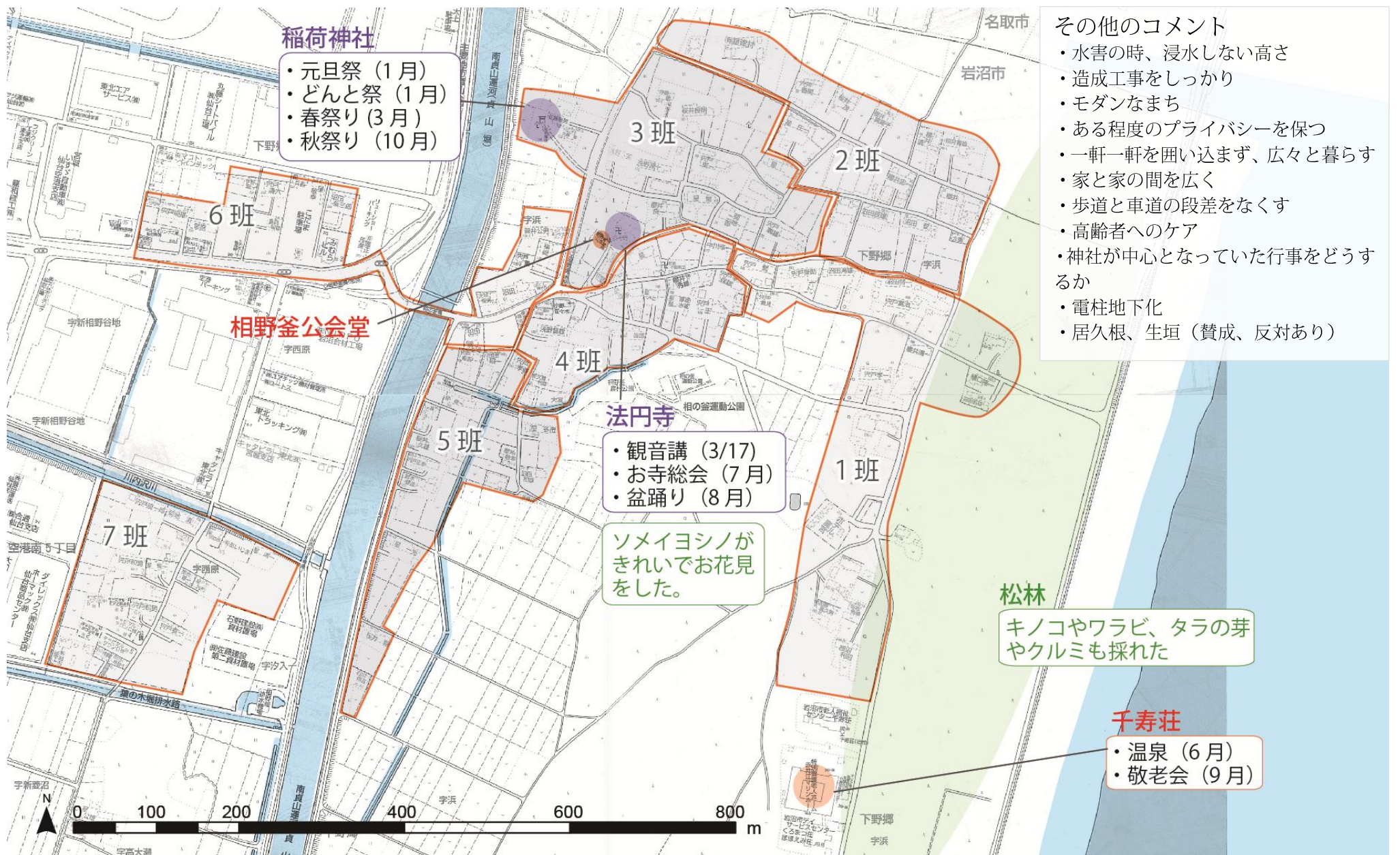
7月21日、岩沼市東仮設住宅集会所において、相野釜地区のこれからのまちを考えるワークショップが行われました。地盤を高くして、地震や水に強いまちにしたい、液状化対策をしっかりとしてほしい、道路を曲げて車のスピードが出ないようにする、といった、安全に暮らせるまちにしたいという内容の意見が多く出されました。また、若い人に魅力のあるまちにしたい、相野釜にあった千寿荘のような高齢者の憩いの場がほしい、一軒一軒を囲わずに広々と暮らしたいといった、居心地のよい生活の場をつくる提案もありました。相野釜にあった稲荷神社についての話から、各地区に入ったときに、その地区らしさがわかるようなデザインがよいという復興住宅地全体の話まで、幅広い内容の話題があり、多くの方から意見や提案が出され、充実したワークショップとなりました。



写真：ワークショップの様子

### 相野釜のまちづくり

- ・集落でまとまって住む
- ・集団移転先の高さは県道よりも高くしてほしい  
(地震に強い、水に強いまち)
- ・液状化対策をしっかりと
- ・集落の中の道路を曲げて、車がスピードを出せないようにする(車と人が安全に)
- ・老人憩いの家を作ってほしい
- ・若い人が住むのに魅力を感じるまちをつくりたい
- ・各集落の中に、その集落の特色を感じられる要素を入れる
- ・緑の管理が大変、行政と自分たちでやることを明確にする
- ・コンビニ、ATM、小さなスーパーがほしい
- ・仙台空港のアクセス鉄道を岩沼駅まで延伸してほしい
- ・稲荷神社を集落の中に残す可能性について考えたい



図：相野釜地区の暮らし(震災前)

この内容は、岩沼市玉浦西地区まちづくり検討委員会に反映される予定です。